

新フェローの紹介

井上 洋一 (いのうえ よういち) 氏

大正8年9月8日生

〔現住所〕 東京都武蔵野市
吉祥寺東町1-13-6

〔学歴〕 昭和15年5月(通信省) 通信官吏練習所 第3部行政科卒業(電話行政, 電気通信工学専門課程)

〔職歴〕 昭和13年5月 通信省に入る(通信官吏練習所

学生) 昭和17年10月—昭和20年10月 野砲兵現役入隊のため休職 航空軍司令部少尉任官 航空軍気象連隊 復員 昭和20年10月—昭和28年4月 通信省, 電気通信省, 日本電信電話公社, 国際電信電話株式会社へ組織, 職務とも変更移行, この間, 各職に勤務 昭和39年以降 販売課長, 事務サービスセンター長, 営業部長, 運用部長等を歴任

昭和51年7月 取締役 昭和55年7月 (財)国際電信電話共済会 理事長 昭和61年6月 国際通信施設株式会社 取締役 昭和63年6月 退任 国際電信電話株式会社 社友 現在に至る

〔OR学会関係〕 昭和50年 OR合同国際会議東京委員, 昭和55年 東京新宿地区の学会員・企業経営者・管理者に呼びかけて「新宿OR研究会」を発足, その世話人として同会の実施運営に当たり, ORの普及に努める.

〔著書等〕 国際電報と貿易との相関関係について(国際電信電話誌—1957) 中国の電気通信技術者との協同作業—北京衛星通信地球局の建設(はぐるま—日刊工業新聞社1972) その他長期通信計画需要予測資料, 国際通信回線予測, 国際会議資料等はいずれも社内資料.

井上氏は, 特に, 国際通信の現場, 管理, 計画, 経営



の各部門に活躍され, また国際通信の重要な特別通信対策である東京・札幌その他海外オリンピックの報道国際通信, 南極基地との通信, 日中国交復活時の北京地球局の建設協力とテレビジョン伝送, 昭和天皇訪米時の報道国際通信, その他多くの特別通信対策に, 中心的リーダーとして活躍し, 国際的評価と信頼の向上に多大の成果をあげ, また計画, 管理には, 統計的品質管理, OR手法の導入, 活用に努め, 国際通信の科学的経営の実施に多大の成果をあげられました. これらにより, 昭和62年には(財)電気通信協会賞を, 平成元年11月には勲四等旭日小綬章を授与されました.

今村 和男 (いまむら かずお) 氏

大正7年3月28日生れ

〔現住所〕 東京都世田谷区
宮坂2-6-14

〔学歴〕 昭和16年3月 大阪大学理学部物理学科卒業

〔職歴〕 昭和21年5月 鉄道技術研究所第2部

昭和23年5月 財団法人 運輸調査局資料部

昭和29年12月 防衛庁航空幕僚監部分析班

昭和45年1月 防衛大学校教授

昭和58年10月 財団法人国際科学振興財団専務理事

昭和62年4月 福井工業大学教授兼任

〔OR学会関係〕 昭和40~48年 評議員

昭和40~41年 常務理事

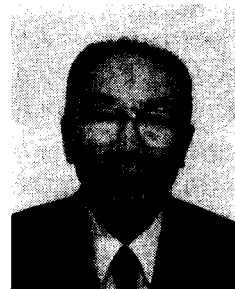
昭和46年 常務理事

昭和47~48年 国際幹事

昭和53~54年 表彰委員

〔著書等〕 『PPBSの実際』(共訳, 東洋経済, 1971), 『システム分析における費用の扱い』(共訳, 東洋経済, 1974), 『システム分析』(共著, 日科技連出版社, 1977), 他にハンドブック等の分担執筆4件, 論文6編, 研究報告等12編, 口頭発表20件

今村氏は, 防衛庁, 防衛大学校において20数年にわたり, 防衛問題のORに従事し, 特に計画策定, 装備品の選択, 教育訓練方式の改善などに貢献した. この間, 計画策定のORの経験から, OR学会でのPPBS部会, 政策部会等の設立, 活動を通じ, 非軍事面でのORについても尽力され, その成果は『PPBSの実際』, 『システム分析における費用の扱い』および『システム分析』



等にまとめられている。国際的には、IFORSの計画理事(1971~1973)をつとめられた。

児玉 正憲 (こだま まさのり) 氏

昭和7年4月22日生れ

〔現住所〕 福岡市東区香椎
駅東4丁目22-6

〔学歴〕 昭和35年 九州大
学大学院理学研究科数学専攻
修士課程修了

昭和43年 理学博士

〔職歴〕 昭和35年 株式会
社日立製作所入社

昭和38年 熊本大学助手 理学部数学科

昭和42年 熊本大学助教授 教養部

昭和43年 大阪大学助教授 工学部応用物理学科

昭和52年 名古屋工業大学教授 工学部計測工学科

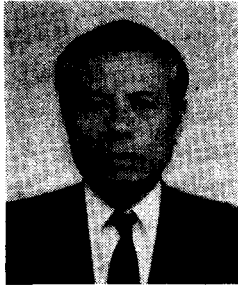
昭和54年 九州大学教授 経済学部経済工学科

昭和62年至平成元年 九州大学評議員

〔OR学会関係〕 理事(無任所) 昭和59~60年度, 評議員 昭和57~現在に至る。関西支部, 中部支部および九州支部運営委員を経て九州支部長 昭和58~63年度, 決定理論とその周辺研究部会主査 昭和56~57年度, 最適化とその応用研究部会主査 昭和61~63年度, 数理モデルとその周辺研究部会主査 平成元年~現在に至る。

〔著書等〕 数理計画システム入門(共著, ビジネス社, 1971), ORによる在庫管理システム(共著, 九州大学出版会, 1982), OR入門(共著, 多賀出版, 1989) 他著書5冊, 論文91編, 講演・口頭発表多数。

児玉氏は応用確率論とくに信頼性・保水性・待ち行列の理論と応用, ファイナンスに関する確率モデル, 動的計画法, 生産・在庫管理に関する数理モデル等の広い分野の研究において顕著な業績をあげられるとともに, ORの啓蒙普及にも長年指導的役割を果たしてこられました。また, 本学会の発展にも役員としてご活躍いただいております。特に九州支部の運営の中核として, 同地区の賛助会員増強にもいちじるしくご尽力してこられました。



竹内 啓 (たけうち けい) 氏

昭和8年10月12日生れ

〔現住所〕 鎌倉市寺分2丁
目34-4

〔学歴〕 昭和33年 東京大
学大学院社会科学研究所修士
課程修了

昭和36年 同大学院経済学研
究科博士課程修了

経済学博士

〔職歴〕 昭和36年 東京大学経済学部助手

昭和38年 同助教授

昭和50年 同教授

昭和62年 東京大学先端科学技術研究センター教授, 併任 経済学部教授

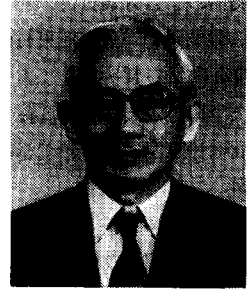
昭和42年~45年 ニューヨーク大学クラーント数理科学研究所客員研究員

〔OR学会関係〕 論文誌編集委員 昭和34~44年度・52~54年度・62年以降現在に至る, 評議員 昭和45~46年度・49~56年度・61~62年度, 理事(研究普及) 昭和46~47年度, 理事・副会長 昭和62~63年度

〔著書等〕 著書は共・編著を含め40冊(内, 英文2冊), 学術論文・英文約60篇・邦文約120篇, 学界報告・招待講演等多数

代表的著作「数理統計学」(東洋経済), 「Asymptotic Theory of Statistical Estimation (Springer)」, 「近代合理主義の光と影」(新曜社), 「情報革命時代の経済学」(岩波書店)

竹内氏は, 数理統計学, 計量経済学の研究において, 長年にわたり顕著な業績をあげられるとともに, ORの分野では数理計画法理論の研究と啓蒙普及に重要な役割を果たしてこられました。さらに近年は, 科学技術と社会との関係について広く関心を持たれて, 現在その領域の総合的研究活動の指導的中核としてご活躍されております。また, 同氏は本学会の運営にも, 長年委員, 役員を歴任され, 特に論文誌の内容充実にもいちじるしく貢献してこられました。



伯野 慶三 (はくの けいぞう) 氏

明治29年11月26日生

〔現住所〕 東京都東村山市
美住町2-17-35

〔学歴〕 大正8年3月 私
立明治専門学校電気工学科卒
業

〔職歴〕 大正8年4月 私
立明治専門学校助教授

大正10年4月 官立明治専門
学校助教授

昭和3年3月 同校教授

昭和10年4月 戸畑製缶株式会社顧問 (文部省)

昭和14年4月 官立明治専門学校退官

株式会社日立製作所研究試験検査課長

昭和20年11月 同社退職

コンサルタント開業 現在に至る。

〔OR学会関係〕 昭和40年入会

〔著書等〕 電動機の応用と共運転経済(丸善, 1932), 公害防止技術実用便覧(共著, 産公社, 1966), 公害防止管理技術マニュアル(共著, 近代図書, 1972), 企業の公害相談(帝国地方行政学会, 1972), 論文・報告・講演多数

伯野氏は、旧明治専門学校(現九州工業大学)電気工学科において、大正8年から20年間にわたり助教授、教授として研究・教育活動にたずさわり、引続き戦時中、6年間は日立製作所に勤務された後、独立してコンサルタントを開業され、今日93歳のご高齢となられてもなお現役として日々活躍しておられます。同氏のコンサルタントとしての特徴は、企業の経営管理の指導、裁判所の鑑定、保険の評価等を実施される場合に“ORの考え方と方法”をORの門外漢向けに“上考法”(上手に考える方法)と命名して活用されていることにあり、それによって幾多の成功の実をあげておられ、これらの成果は本学会の研究発表会に8回にわたり報告され、会員に感銘と刺戟を与えてされました。



矢島 敬二 (やじま けいじ) 氏

昭和5年8月9日生

〔現住所〕 千葉県市川市中
山1-7-14

〔学歴〕 昭和31年3月 東
京都立大学理学部数学科大学
院修士課程修了

昭和58年 工学博士

〔職歴〕 昭和31年 東洋経
済新報社出版局

昭和35年 株式会社日本科学技術研究所計算センター

昭和39年 東京経済大学専任講師

昭和42年 同大学助教授

昭和43年 日本科学技術研究所取締役

昭和48年 同社代表取締役専務

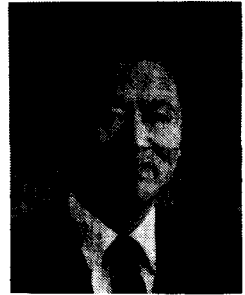
昭和62年 同社顧問

平成元年 東京理科大学教授 工学部 現在に至る

〔OR学会関係〕 理事(庶務)昭和54~55年度、副会長(研究普及委員長, 表彰委員長)昭和62~63年度, 表彰委員 昭和55年~平成元年度, 評議員 昭和47~48・57~平成元年度, 経営工学関連学会協議会(FMES)代議員 昭和62~63年度

〔著書等〕 アルゴリズム入門・第5章統計解析(日科技連, 1972), コンピュータ百話(日科技連, 1975), 続多変量解析・第7章クラスター分析(日科技連, 1976), System Modeling and Optimization(共著・Editor, Springer, 1988), 他2編, 訳書6冊, 論文13編, 研究報告18編, 講演・口頭発表多数。

矢島氏は応用統計学の分野で顕著な研究業績をあげられるとともに、企業経営者として、特にORに関連するソフトウェアの開発の指導・推進においても幾多の成果をあげてられました。また本学会の運営にも、長年役員・委員を歴任され、常に学会活動の中核として指導的役割を果たされており、さらに、国際的にもIFIP(国際情報処理連合)技術委員会7(システムのモデルと最適化)日本代表委員等としてOR関連分野において活動されております。



田辺國士氏の紹介は都合により次号に掲載の予定。